

平成 30 年度 「臨地実習教育会議」 レポート

3月6日、本学部で例年行われている「臨地実習教育会議」を開催しました。

この会議は、看護学各領域の実習施設と本学部が協働で看護学生を育てるために、実習の振り返りや今後の課題について共有する貴重な機会となっています。県内各地の43施設から全体会に89名、各領域の分科会に88名の方が出席しました。

全体会では、教務委員長より2019年度からスタートする新カリキュラムについて、看護教育企画小委員長より2019年度の看護学実習共通要項に関する変更点について説明しました。新カリキュラムについては、平成29年10月に看護学教育モデル・コア・カリキュラムが文部科学省から示され、それを受け本学部でも看護教育の質をよりよくするために現行カリキュラムの見直しを行ったこと、見直しを検討する中で、現行カリキュラムも看護学教育モデル・コア・カリキュラムの内容と合致しているが、多職種連携に必要なチーム医療、東日本大震災と原発事故後の福島県で学ぶ災害看護学、重要課題として位置づけられている地域包括ケアについて学びを充実するという点を踏まえて新カリキュラムを作成した背景についての説明しました。加えて、新設科目や保健師選択制に伴う措置、授業時間の変更、臨地実習の主な変更点、そして、ここ数年は、現行カリキュラムと新カリキュラムが並行していくことを説明し、実習担当者の方のご協力をお願いしました。2019年度看護学実習共通要項に関する変更点については、主にインシデント・アクシデントレベルの分類と針刺し等血液曝露発生における対処方法、看護学部臨地実習における実施可能な看護技術に関する変更点を具体的に説明しました。

最後に、“福島への看護に貢献できること”“福島県から創造・発信する看護とは”を検討する中で生まれた企画、『看護学部看護研究講座-基礎編』について紹介しました。

全体会終了後は、それぞれの実習領域別に分科会を実施しました。本年度の実習を振り返り、課題を共有して、次年度の実習指導に活かしていく機会となりました。

